

八雲町地域防災計画改定及び業務継続計画等策定業務公募型プロポーザル 審査結果講評

本業務は、近年の法改正等への対応や大規模災害における教訓に加え、将来的な八雲町役場の庁舎建設及び役場機能の移転を見据え、防災体制を抜本的に強化することを目的としています。特に、学術アドバイザーと連携する「定量的弱部分分析」や「日本版 NIMS/ICS（現場指揮システム）」、「WBS（作業分解構成図）」の手法を行政実務へいかに実効性高く反映させるかを重要な審査のポイントとしました。

当審査委員会（委員 10 名）において、参加事業者から提出された企画提案書、参考見積書、及びプレゼンテーション・ヒアリング内容を厳正に審査し、総合的な評価を行った結果、最優秀事業者（及び優秀事業者）を選定いたしました。

応募いただいた各事業者からは、豊富な防災計画策定の実績に裏打ちされた高度な提案や独自の視点を取り入れた意欲的な企画が示されました。

全体を通した評価のポイントは次のとおりです。

＜業務の理解度と専門性＞

上位となった事業者は八雲町の地域特性（地理的条件や人口動態、インフラの現状等）を深く把握したうえで、仕様書が求める「定量的弱部分分析」の手法をどのように地域防災計画や業務継続計画（BCP）に反映させるかについて具体的かつ論理的なプロセスを示していました。

＜実働型ツール及び町職員へのアプローチ＞

単なる計画書の作成に留まらず、災害発生時の初動期などにおいて町職員が迷わずに行動できる「日本版 NIMS/ICS」に基づいた部署別受援シートや実働型ツールの構築手法について、災害現場の負担を考慮した現実的なアプローチが評価されました。

＜新庁舎建設・将来ビジョンとの整合性＞

新庁舎建設期間中の「暫定代替庁舎」における業務継続の工夫や「復興事前準備指針」の組み込み方について、町政全体を見据えた提案がみられました。

審査の結果、選定された最優秀事業者は、以下の点で特に優れていました。

＜確実な実績と信頼性の高い業務推進方法＞

類似業務における豊富な実績を有し、能登半島地震における半島防災の知見の反映や配置予定技術者の専門性を鑑みた業務推進方法が極めて妥当でありました。

＜専門知見の翻訳・可視化の工夫＞

学術アドバイザーが提供する高度な分析手法や複雑なデータを住民ワークショップや職員訓練等において「わかりやすく伝える・見せる」ための具体的なデザインやツール案が秀逸でありました。

＜実効性の高いBCP・受援計画の構築＞

業務影響度分析（BIA）から導き出された非常時優先業務に対し、WBS手法を連動させた実用的な受援体制の構築案が提示されており、八雲町の防災力向上に最も寄与すると期待されます。

今後は、最優秀事業者と詳細な協議を行い、学術アドバイザーも含めた三者間の密接な連携のもと本業務を推進してまいります。策定される計画や実働型ツールが、実際の災害時に町民の生命と財産を守り、八雲町の持続的な発展を支える強固な基盤となることを切に期待いたします。

令和8年7月22日

八雲町地域防災計画改定及び業務継続計画等策定業務プロポーザル審査委員会
委員長 八雲町副町長 竹内 友身